

石坂わたるの たつのこ通信

2021・初夏号
Vol.40



昨年の予算審議で指摘をした点も改善されず、
やむなく2年連続で予算案に反対をしました。

議会の構成が大きく変わった前回の区議会議員選挙から2年がたちました。自民・立民・公明・共産・都ファの各会派が賛成する一般会計予算案に無所属議員の半数が反対する状況や、立民・共産と、自民・公明・都ファが対立した区の基本構想案に関して無所属議員がキャスティングボードを握ることになり、1票差で可決という状況が生まれました。政治信条、政治手法、議案への賛否の傾向が各自異なる無所属ですが、党利党略ではない対話や、意見が一致した無所属議員同士の連携などは進めて行きたいと思えます。

★令和3年度中野区一般会計予算案に反対をいたしました。(介護保険などの各特別会計の予算案には賛成を致しました)

反対理由: ①2年連続で予算案に直近の委員会で議論した内容と異なる箇所があり、すでに実施しないことが決まった事業が含まれた予算案になっていること。②「調達ガイドラインに反する調達があったとしても、ガイドラインのほうを変えてしまえば問題がない」と解される発言が区長部局からなされたこと。③生活保護課で偽装請負が疑われる記録が存在していること。④区民分科会にて区民部予算への質問に対して区民部の管理職が回答できず、十分な審議ができなかったこと。

採決の結果: 無所属の4名が討論を行った上で反対をしましたが、全ての会派と他の無所属議員が賛成し可決しました。

★中野区基本構想案に賛成をしました。

今後の区政運営の大元となる構想案を字義通りに読み取った際に大きな問題はなく、基本構想を具現化していく基本計画の内容には不安な点がありつつも、両者は切り離して考えるべきと考え、賛成をしました。採決の結果、1票差での賛成多数で可決となりました。



2/3 中野駅ガード下のギャラリーに中野育フェスのメンバーで展示設置



2/13 入間市内のLGBTQのコミュニティカフェの見学
(写真はトランスジェンダー当事者議員の入間市議会議員の細田智也さんと)



3/14 中野区医師会館での新型コロナウイルスワクチン接種のシミュレーションの見学



3/19 超高齢社会のまちづくり展



第1回定例会予算総括質疑

第1回定例会において以下のような質疑を行いました。

▶ 一般質問

安心できる新型コロナの情報発信を

石坂：不安ムード醸成での自粛は、心の健康を崩す人、家庭内の暴力、児童の自殺、自粛警察の出現に至っています。根拠を示した予防法や(散歩などの)奨励すべき行動など不安を減らす広報をすべきです。

区長：新たに明らかになってきた予防や対応に加え、区民の方がホッとする情報やメッセージを発信するよう努めたいです。

新型コロナ禍の傷病手当金の対処拡大を

石坂：国民健康保険の個人事業主やフリーランスなど自営業者も、被用者と同様に傷病手当の支給対象にすべきです。

区長：対象に加える考えはありませんが、国の動向等を通じて適切に対応したいと思います。

石坂：20市町が独自に実施しています。

区長：他の自治体での状況も注視したいと思います。

新型コロナ禍の生活保護の心のハードルを下げる努力を

石坂：「失業から次の仕事を見つけるまでの生活保護受給」、「生活保護を受けながらの自立支援」、「生活が立ち行かなくなる前に制度に繋がってほしい」など、ネガティブイメージを払しょくする情報発信をし、生活保護申請への心のハードルを下げるべきです。

健康福祉部長：関係機関と連携し、適切なサービスに繋ぐ情報発信を工夫します。

子育てをとりまく環境への支援

石坂：子ども達が、自らの心身の健康について知り、新型コロナウイルスのような流行性感染症や、HIVを含む性感染症、引きこもりや自殺に影響する精神疾患から身を守る知識を得ることが必要です。

子ども家庭支援担当部長：検討します。

石坂：子ども施策やまちづくりは、特別支援学級の子との対話・公聴も必要です。

子ども家庭支援担当部長：学校と調整し、効果的に意見が伺えるか検討したいです。

▶ 区民委員会

●資源ごみのうち、食用油回収の拠点・時間の利便性を向上を求めました。

●製品プラスチックの資源ごみ回収に向けた検討を始めることを評価しました。(現在は容器のプラスチックのみの回収)

●中野区環境基本計画などの改定について、河川やビオトープでの水辺の生物多様性や、外来樹でない昔の中野の植生を考えた緑化を行って、昔ながらの虫や鳥を取り戻す取組を求めました。また、屋上緑化などの促進について周知を求めました。

●中野区ゼロカーボンシティ宣言について、中野区地球温暖化防止条例に基づく区、区民、事業者の責務(努力義務)の周知を求めました。

▶ 予算総括質疑

二次避難所(福祉避難所)の感染症対策と機能強化を

石坂：災害時二次避難所(障がい児者や高齢者、乳幼児親子などの福祉避難所)に、感染症予防の、アルコール、マスク、体温計、アクリルパネルなどの備蓄をすべきです。

防災担当課長：二次避難所が一部民間事業所であるため、スペースの確保を継続的に協議検討していきたいと考えています。

石坂：二次避難所で、発熱者が出た場合には、部屋を分けるなどの対応が必要です。

防災担当課長：二次避難所でも(マニュアル作成済みの通常の避難所と)同様に行う予定ですが、保健所や医療機関との連携も併せて取り組みたいと考えています。

石坂：二次避難所に避難した方が利用中の福祉サービスや障がいについて避難先施設の職員との情報共有が課題です。

障害福祉課長：今後検討したいです。

通常の避難所でも社会的マイノリティへの対応力強化を

石坂：避難所運営関係者用に、障がい者、LGBTや海外にルーツを持つ人の対応手引きを、当事者の声を聞き、作るべきです。

防災担当課長：要配慮者の避難支援などを定めた対応要領に障がい者、外国人、性的マイノリティに対する具体的支援内容は明記がなく、改正予定の避難所運営管理マニュアルに盛り込みたい。

同性パートナーシップ制度の区役所内での対応について

石坂：現在の同性パートナーシップ制度について区の全事業で家族と同様に扱うよう各部署に検討を徹底すべきではないですか。

ユニバーサルデザイン推進課長：各部署に働きかける予定です。

将来を見据えた区職員の人材育成

石坂：新型コロナウイルス禍のような危機時に他部署へ応援可能な人材育成が必要です。また、平常時から管理職候補者がマネジメントを担う部署の経験を持つような人材育成が必要です。

職員課長：区の職員をバランスよく育成する必要があります。

新型コロナウイルス禍における職員の健康管理や人事配置・評価などの工夫を

新型コロナウイルス対策で①部署を跨いだ応援、②長時間勤務、③一人の課長が複数の課の課長を兼務、④過労や心労から体調を崩す職員などが増えているため、①都への医師派遣の要請(平常時から、23区各区の常勤の医師は東京都からの派遣によって賄われています)②管理職の確保、③(職員全体の人件費が削減されていますが)重責を担って頑張る職員への人事評価による待遇改善を求めました。

▶ 地域包括ケア推進調査特別委員会

●障がい、高齢、子どもの福祉と生活困窮支援手続きのワンストップ化を求めました。

●新型コロナウイルス禍での高齢者虐待の防止の推進を求めました。

●障がい者が3年を超えて安定的に住める滞在型グループホームの開設支援を求めました。

●新型コロナウイルスへの特別定額給付金未申請者への手続き支援について、高齢者、精神・視覚障がい者等のみを対象にし、知的障がい者等には支援しなかったことの問題を指摘しました。



お問い合わせは **Tel&Fax 03-6304-8758**

<http://ishizakawataru.jp/> [✉ wishizaka@ishizakawataru.jp](mailto:wishizaka@ishizakawataru.jp) [🐦 @ishizakawataru](https://twitter.com/ishizakawataru)

編集・発行 [共生中野]〒164-0014 中野区南台2-51-7-305 TEL&FAX 03-6304-8758 (留守番電話に切り替わるのに時間がかかる場合があります)
[中野区議会]〒164-8501 東京都中野区中野4-8-1 TEL 03-3228-8874 (無所属控室) [事務所]〒164-0012 中野区本町6-27-12-603

ボランティアの
お問い合わせもこちらへ

(留守番電話にメッセージを残す場合は
12回ほどベルを鳴らしてください)